

# 2010年3月期 決算説明会

2010年5月26日

代表取締役社長 中川 博司



[証券コード：2176]

## 2010年3月期 決算概要

## 2010年3月期 連結業績（前期との比較）

株式会社 **イナリサーチ**  
（単位：百万円）

	前期	当期	対前期比	
	2008年4月-2009年3月	2009年4月-2010年3月	金額	増減率
	実績	実績		
売上高	3,566	3,750	184	5.2%
売上総利益	1,262	1,032	△230	△18.2%
販管費・一般管理費	903	864	△39	△4.3%
営業利益	359	168	△191	△53.1%
経常利益	295	153	△142	△48.0%
当期純利益	125	66	△59	△47.1%

3

## 2010年3月期 連結業績 概要

株式会社 **イナリサーチ**

### ◆売上高

非臨床試験事業は、当社グループの主力であるサル試験の増加などから売上が増加し、3,441百万円（前期比8.6%増）となりました。

また、環境事業では空調・脱臭設備及び試験機器・飼育機器の受注は堅調だったものの、来期以降の売上となるものが多く、223百万円（同33.1%減）にとどまりました。一方、食品試験事業は若干増加し、85百万円（同31.9%増）となりました。

この結果事業全体では、3,750百万円（同5.2%増）となりました。

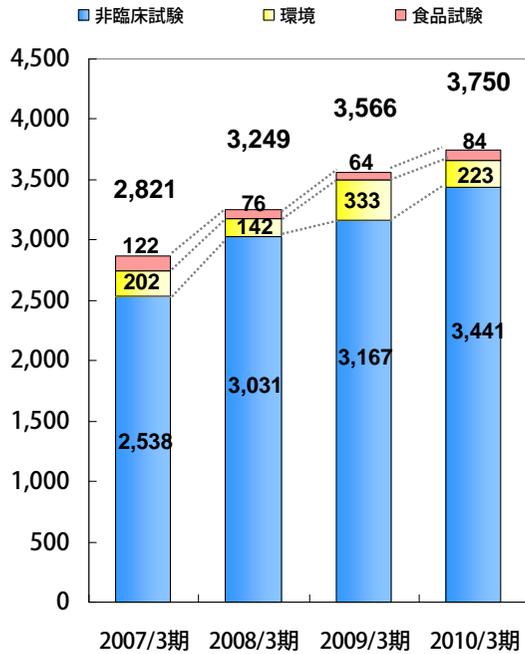
### ◆営業利益

大手製薬企業の動きや景気低迷による新薬開発ベンチャーからの試験減少及び同業他社との競合激化により受注が伸び悩み、その結果稼働率が低下したことや、積極的な設備投資による償却費・リース料等の増加が、収益を圧迫する要因となり、営業利益は168百万円（同53.1%減）となりました。

4

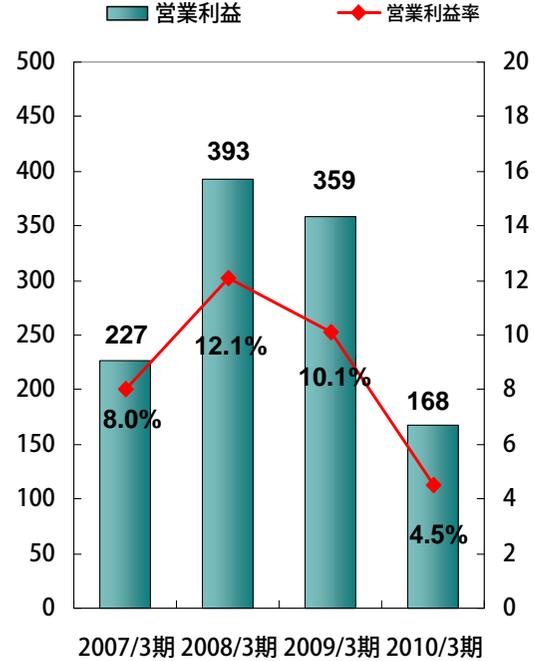
# 連結業績 売上高・営業利益：推移

(単位：百万円)



売上高推移

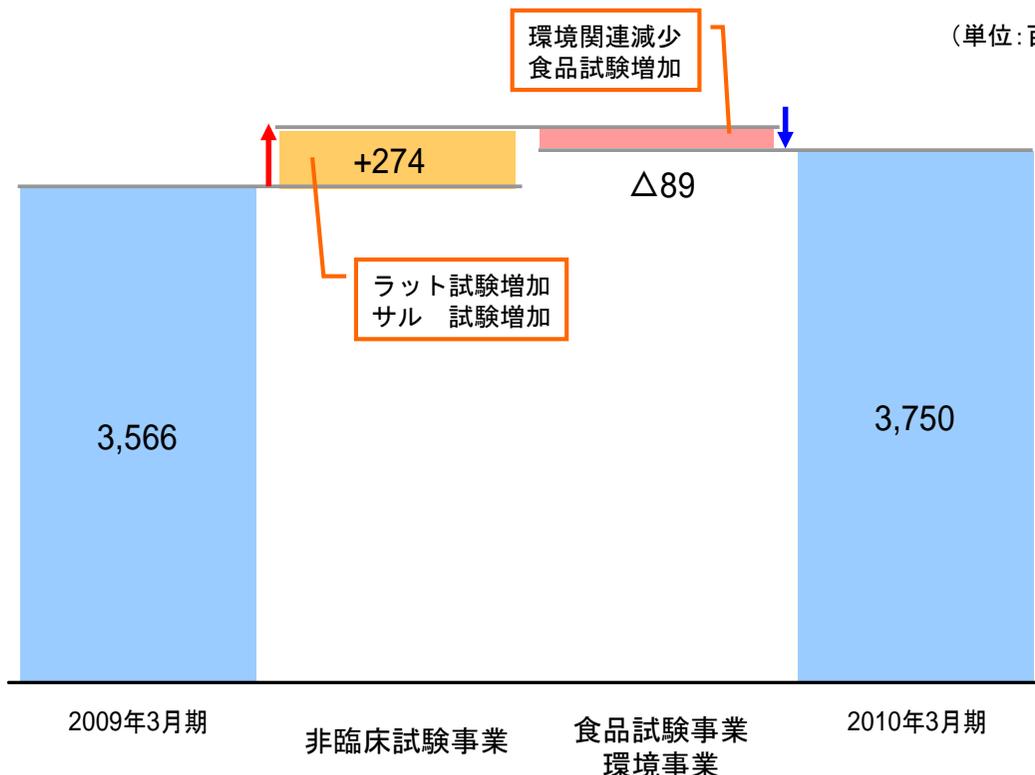
(単位：百万円)



営業利益推移

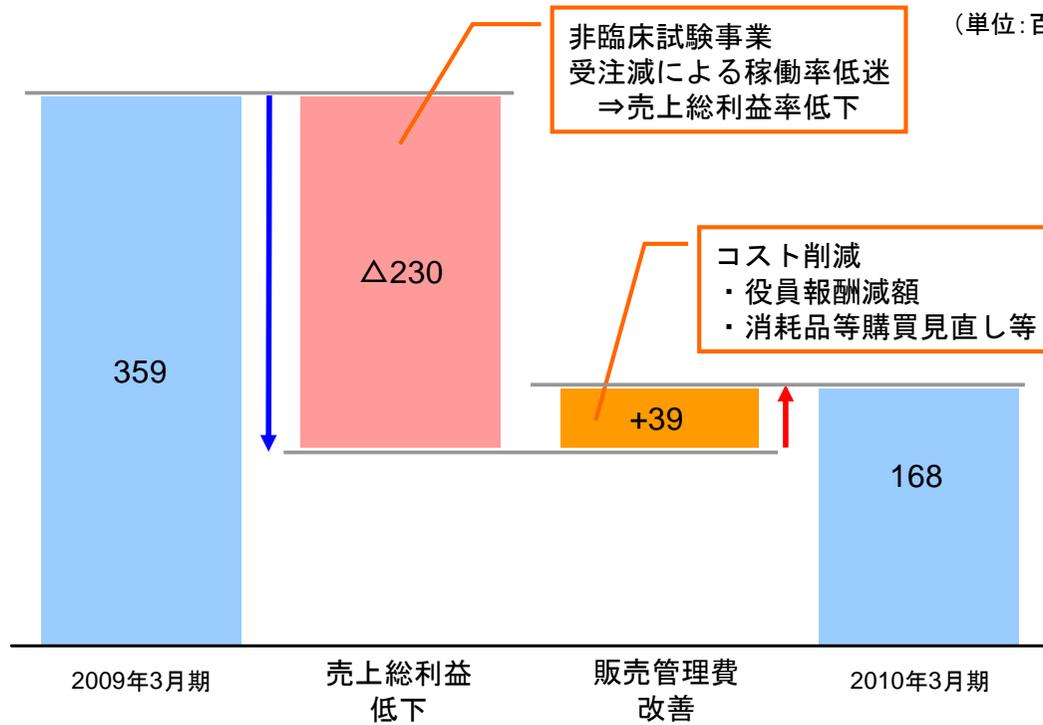
# 売上高増減内訳

(単位：百万円)



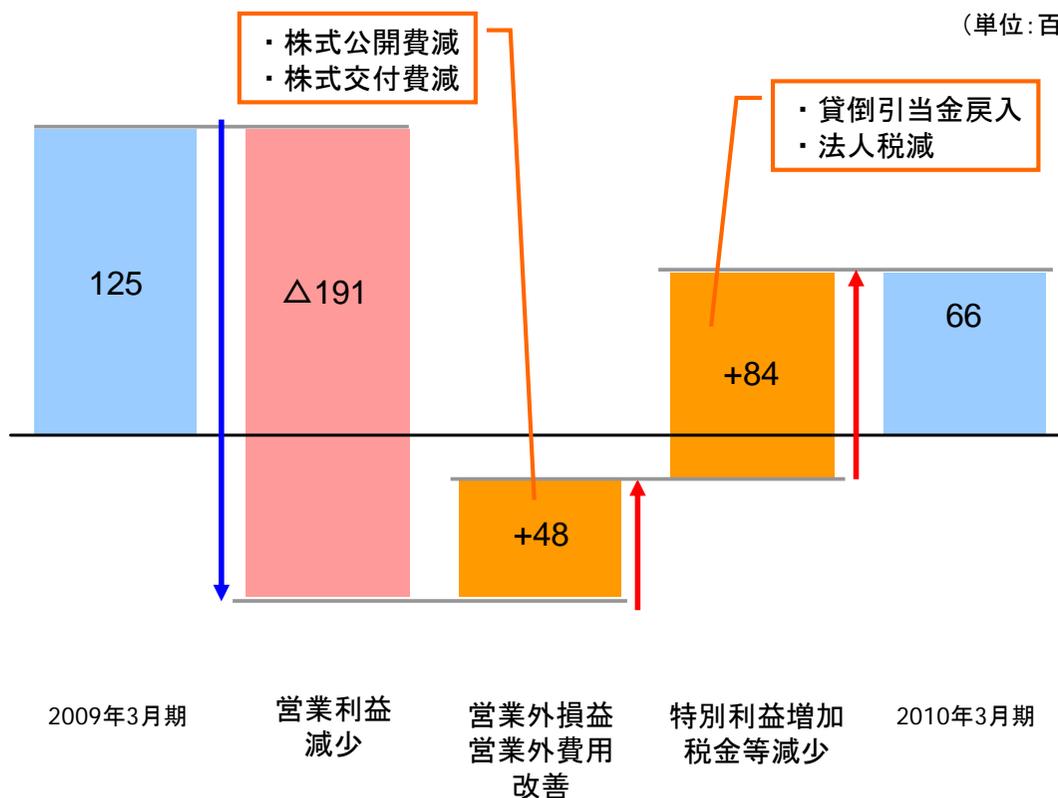
# 営業利益増減内訳

(単位: 百万円)



# 当期純利益増減内訳

(単位: 百万円)



# 事業セグメント別の売上高と営業利益

	前期 2008年4月-2009年3月		当期 2009年4月-2010年3月		対前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増加額	増減率
売上高	3,566	100%	3,750	100%	184	5.2%
非臨床試験事業	3,167	88.8%	3,441	91.8%	274	8.6%
臨床試験事業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品試験事業	64	1.8%	85	2.3%	21	31.9%
環境事業	333	9.4%	223	5.9%	△110	△33.1%
営業利益	359	100%	168	100%	△191	△53.2%
非臨床試験事業	472	131.6%	318	189.3%	△154	△32.5%
臨床試験事業	△84	△23.5%	△58	△34.5%	26	—
食品試験事業	△39	△10.9%	△50	△29.8%	△11	—
環境事業	10	2.8%	△41	△24.4%	△51	—

# 事業セグメント別の状況

## 非臨床試験事業：

売上高 3,441百万円（前年比 8.6%増）  
営業利益 318百万円（同 32.5%減）

⇒当社グループの主力であるサル試験の増加しました。  
⇒製薬会社の研究開発費の投資動向の変化や同業他社との競合激化等の影響を受け受注が伸び悩み、稼働率が低下したため収益を圧迫しました。

## 臨床試験事業

営業損失 58百万円（前年度 84百万円）

⇒初めてTQT試験につながるデータ解析が売上となりました。今後は、本試験の前提となる探索QTの受注に向け、関連学会への発表等を積極的に実施するとともに、試験管理面で組織体制の一層の強化に取り組んでまいります。

## 食品試験事業

売上高 85百万円（前年比 31.9%増）  
営業損失 50百万円（前年度 39百万円）

⇒非臨床試験と比べて小規模な試験が多いため収益確保が厳しいものとなりました。

## 環境事業

売上高 223百万円（前年比 33.1%減）  
営業損失 41百万円（前年度 営業利益10百万円）

⇒脱臭装置の保守修理業務と付随する消耗品の販売が中心となりました。大手製薬企業研究所への動物飼育機材等の受注を請けており、本年度中の売上を見込んでおります。

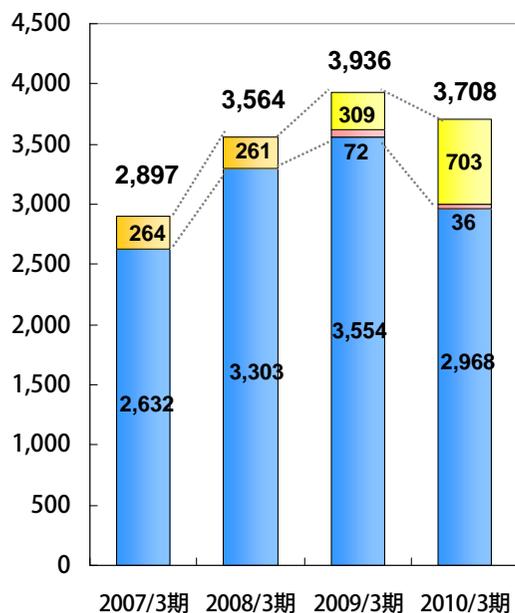
# 事業セグメント別の受注高・受注残高状況

	前期 2008年4月-2009年3月		当期 2009年4月-2010年3月		対前期比	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高 増減率	受注残高 増減率
非臨床試験事業	3,554	2,472	2,968	1,858	△16.5%	△35.9%
臨床試験事業	0	0	0	0	0%	0%
食品試験事業	72	23	36	1	△50.0%	△95.7%
環境事業	309	26	703	617	127.5%	2273.1%
<b>合計</b>	<b>3,936</b>	<b>2,523</b>	<b>3,708</b>	<b>2,447</b>	<b>△5.79%</b>	<b>△3.0%</b>

# 事業セグメント別の受注高・受注残高の推移

(単位：百万円)

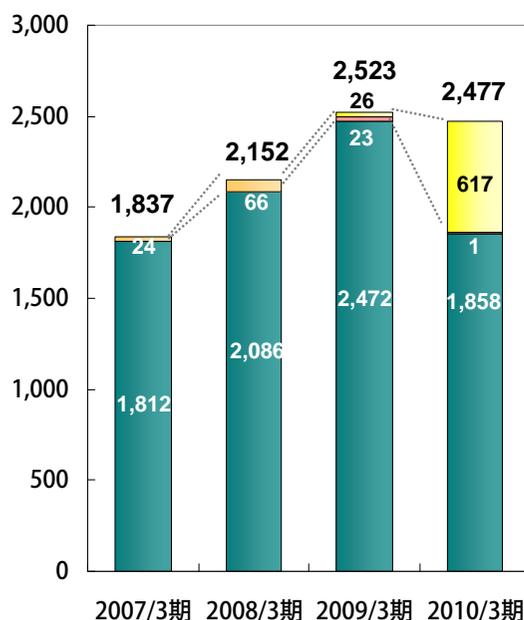
■ 非臨床試験 ■ その他 ■ 食品試験 ■ 環境



受注高推移

(単位：百万円)

■ 非臨床試験 ■ その他 ■ 食品試験 ■ 環境



受注残高推移

## 補足：医薬品業界の受注環境

### 研究開発の生産性悪化・経済不況により谷間の時期を迎えている

- ◆ 各国規制当局の審査基準強化や創薬標的の難度上昇
- ◆ 世界的な経済不況による開発の見直し・絞り込み
- ◆ 2010年問題対応のため、製薬各社が一時的に臨床試験に投資をシフト  
(実験動物市場の動向から非臨床試験は10-20%程度減少)

### 今後の動向

- ◆ 研究開発意欲は依然高いレベルにあり、基礎研究である非臨床試験も含めていずれ開発費・アウトソーシングともに上昇する
- ◆ 欧米大手製薬会社を中心に生産性向上を目指した独自の研究開発モデル構築が進む

### 当社の対応（詳細は後述）

- ◆ POC(Proof Of Concept：新薬候補物質の探索段階からEarly Phase II 臨床試験段階まで一環したサービスを提供する)の推進による研究開発の効率化ニーズへの対応
- ◆ 海外マーケットへの対応強化

## 連結貸借対照表（資産の部）

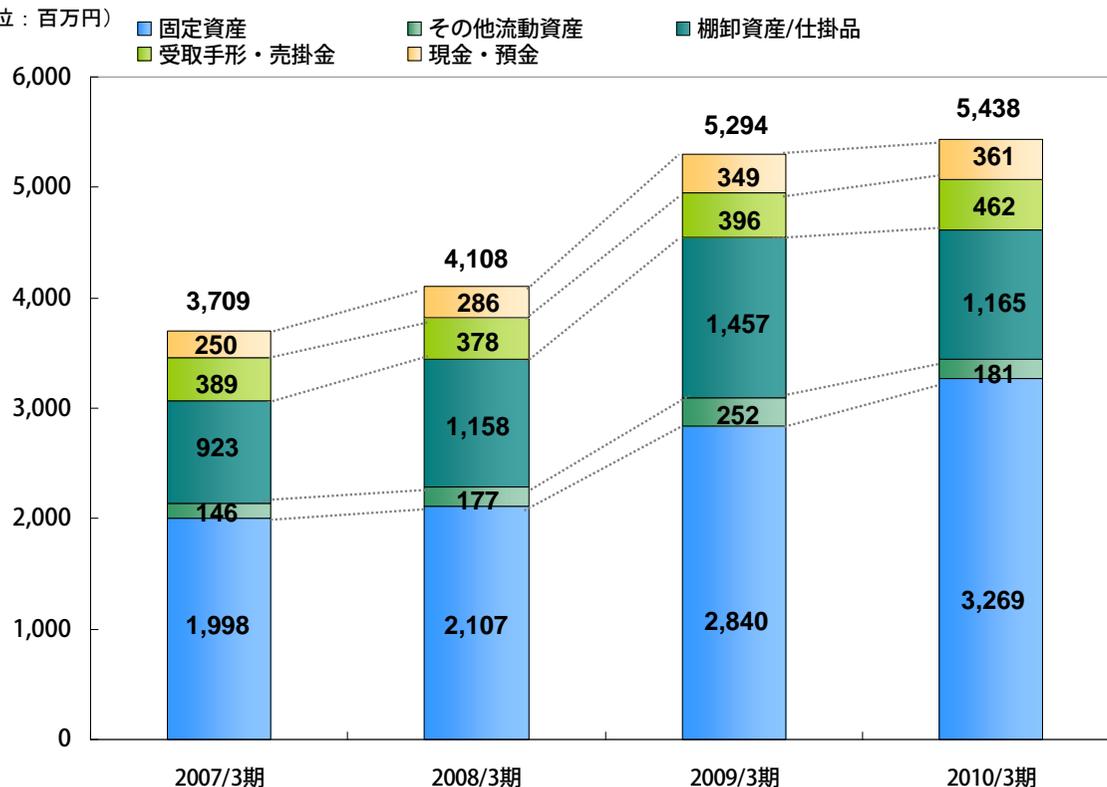
	前期 2008年4月-2009年3月	当期 2009年4月-2010年3月	(単位：百万円) 増減
<b>&lt;資産の部&gt;</b>			
<b>流動資産</b>	2,453	2,169	△ 284
現金及び預金	349	361	12
受取手形及び売掛金	396	462	66
たな卸資産/仕掛品	1,457	1,165	△ 292
<b>固定資産</b>	2,840	3,269	429
有形固定資産	2,797	3,128	331
建物及び構築物	1,858	1,996	137
土地	627	824	196
その他	310	307	△ 3
無形固定資産	9	103	94
投資その他の資産	33	37	4
<b>資産合計</b>	5,294	5,438	144

## 連結貸借対照表（負債の部・純資産の部）

	前期 2008年4月-2009年3月	当期 2009年4月-2010年3月	増減
<b>&lt;負債の部&gt;</b>			
流動負債	2,840	2,185	△655
支払手形及び買掛金	361	300	61
短期借入金	540	220	△320
1年以内返済予定長期借入金	222	444	222
前受金	1,160	648	△512
固定負債	599	1,371	772
長期借入金	429	1,097	668
負債合計	3,440	3,557	117
<b>&lt;純資産の部&gt;</b>			
株主資本	1,834	1,855	21
少数株主持分	77	79	2
純資産合計	1,854	1,881	27
負債純資産合計	5,294	5,438	144

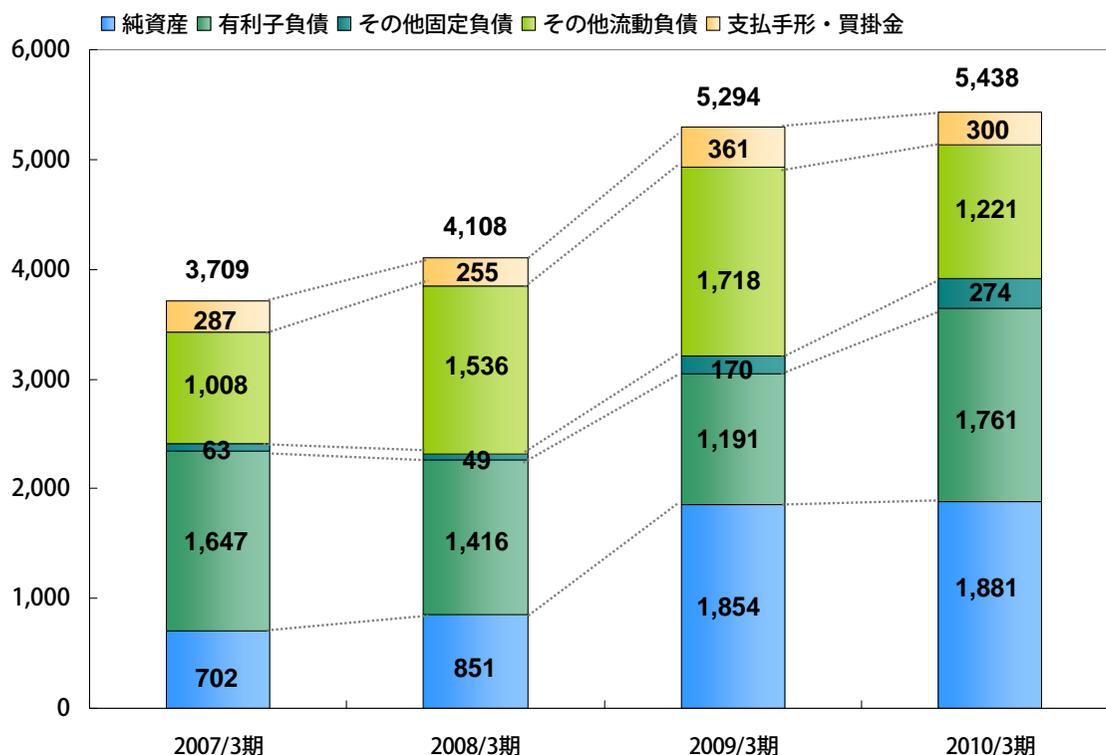
## 連結貸借対照表：推移（資産の部）

(単位：百万円)



## 連結貸借対照表：推移（負債の部・純資産の部）

（単位：百万円）



## 連結キャッシュフロー

### ■営業活動によるキャッシュフロー：

減少の主な理由は受注減による前受金の減少、税金等調整前当期純利益の減少です。

### ■投資活動によるキャッシュフロー：

主な内訳は土地を含む有形固定資産の取得で574百万円です。

### ■財務活動によるキャッシュフロー：

主な内訳は短期借入金の純減少額320百万円、長期借入れによる収入1,150百万円、長期借入金の返済による支出259百万円、配当金の支払額47百万円です。

（単位：百万円）

	前期 2008年4月-2009年3月	当期 2009年4月-2010年3月	増減
営業活動によるキャッシュフロー	268	99	△169
投資活動によるキャッシュフロー	△899	△593	306
財務活動によるキャッシュフロー	697	487	△210
現金及び現金同等物の増減額	50	△5	△55
現金及び現金同等物の期首残高	255	306	51
現金及び現金同等物の期末残高	306	300	△6

## ■ 配当実績及び当期配当金について

### 配当金額の推移

#### 1株当たり配当金

2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期（見込み）
500円	1,100円	1,600円 普通850円 記念750円	500円 (配当性向22.5%)

## 当期(2010年3月期) 事業内容

## 非臨床試験事業 (売上：動物種別内容)

### 動物種別売上

3,167百万円		3,441百万円
2009年3月期	+274百万円 →	2010年3月期

1. 小動物（ラット）試験  
近年急成長したサル試験とバランスよく事業を拡大するため、小動物（ラット）試験の拡販に傾注した  
⇒対前期比 74百万円 の売上増加となった
2. サル試験  
2008年9月に稼働した第7棟により試験能力は45%増加  
さらに第8棟が2010年3月稼働開始し、受託体制が整った  
⇒対前期比 304百万円 の売上増加となった
3. その他  
その他の小動物試験及びイヌ試験の売上はやや減少した

## 非臨床試験事業 (売上：試験種別内容)

### 試験種別売上

3,167百万円		3,441百万円
2009年3月期	+274百万円 →	2010年3月期

1. 一般毒性試験  
ラットおよびサルの反復投与毒性試験の売上が順調だった  
⇒対前期比 140百万円 の売上増加となった
2. がん原性試験  
ラットによる試験が完了した  
⇒対前期比 120百万円 の売上増加となった
3. その他  
生殖発生毒性試験が減少したものの、薬効薬理試験が増加した  
また安全性薬理試験などのその他の試験は、ほぼ横ばいであった

## 非臨床試験事業 (トピックス)

### 将来の事業拡大にむけた事業環境の整備

#### 1) 試験受託体制の強化

- ◆ 新棟（第8棟）の操業を開始し、サル試験の強化・拡充を実現



#### 施設能力

2010年2月稼動開始

1. サル 検疫頭数が **2倍に増加**
2. サル 収容頭数が **50%増加**

#### 2) ヨーロッパ支所（営業拠点）開設

- ◆ 欧州製薬企業から、主に大動物の医薬品非臨床試験受注を目論む
- ◆ 欧州化学品企業から、化学品の非臨床試験受注を目論む（REACH規制対応）

2010年3月稼動開始

#### 3) 安全性試験支援システム：Provantis™ 導入 （データ採取～帳票作成までを支援）

- ◆ 試験実施業務の合理化、信頼性の向上
- ◆ 業界標準システム（製薬企業、CRO導入事例多数）

2010年5月稼動開始

## 非臨床試験事業 (取組み状況)

#### 1) 研究開発の効率化ニーズへの対応

- ◆ POC推進の一環として複合型試験立ち上げによる開発の短期化・効率化
- ◆ 抗体医薬品、ゲノム創薬への流れの中でニーズが高まるサル試験の強化
- ◆ サルAV-Blockモデル（開発初期の段階で循環器への副作用リスクを検出）の市場PR、販売強化
- ◆ 毒性分野における遺伝子解析による効率的なサル試験の開発と提案

#### 2) 海外マーケットへの参入拡大

- ◆ 欧州市場：営業拠点を設け、イヌ・サルの一般毒性試験を中心とした試験受注体制を強化
- ◆ アジア市場：韓国有数のパートナーとの協力体制構築
- ◆ 米国市場：営業拠点を設け、安全性薬理試験の受注を推進
- ◆ 上記マーケットでの営業活動を通じて、欧米大手製薬会社の研究開発モデルの情報を入手し、当社の参画方法を検討

## 製薬会社の研究開発効率化ニーズへの対応

- ◆ POC推進の一環として小規模Phase I 試験を導入
- ◆ Thorough QT試験※1 の実施体制作り完了
- ◆ フィリピンにおける臨床試験クリニック拡大
- ◆ 初期スクリーニングを目的とした探索QT試験の開発

※1 Thorough QT試験：臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒト（健常者）により予測評価する試験。

厚生労働省 医薬食品局より、Thorough QT試験※1実施に関するガイドライン※2が発表された。（2009年10月23日）

- ※2 「[非抗不整脈薬におけるQT/QTc間隔の延長と催不整脈作用の潜在的可能性に関する臨床的評価について](#)」（薬食審査発1023第1号）  
「[ヒト用医薬品の心室再分極遅延（QT間隔延長）の潜在的可能性に関する非臨床的評価について](#)」（薬食審査発1023第4号）」

## 今後の取り組み

# 非臨床試験事業

## 成長分野（サル）への資源の集中

### 高品質なサルの安定供給体制及び効率的な試験実施体制構築

- サル育成施設(PQCC、海南ルート)における高品質なサル供給体制の維持
- 本社検疫棟・ストック棟の建設によるスムーズな試験投入体制の構築

### サルを用いた試験の強化・拡販

- バイオ医薬品（特に抗体医薬品）試験市場でのプレゼンスの拡大
- 欧州（営業拠点開設）、アジア、米国市場への営業強化
- 一般毒性試験の拡販
- 科学技術振興機構「独創化モデル」に採択されたAV-ブロック等の安全性薬理試験の国内外への積極的なPR
- 積極的な提携及びコラボレーションによる試験拡販

特質化試験の推進とキャンペーン実施によるサル試験シェアの拡大

## POCの更なる推進

# 臨床試験事業

## 臨床試験ビジネス

### Thorough QT/QTc 試験、小規模Phase I 試験のビジネス導入

- ICH(日米欧における新薬申請書類の共通化による新薬開発の迅速化・効率化) ガイドラインに準拠した Thorough QT/QTc 試験への展開
- POC推進をベースとした当社の開発支援サービスの積極的なPR
- 小規模Phase I 試験の導入と拡販
- 新臨床試験施設の稼働とボランティア体制(日本人含む)の更なる充実

## 食品試験事業

顧客の視点に立った高品質なサービス提供を目指す

- 外部専門家と連携しコンサルテーションを含めた総合開発支援を展開
- 食品関連学会・展示会に出展し、さらに知名度を向上させる

## 環境事業

継続的な積極営業活動展開

- 超大型物件プロジェクトや国家プロジェクトへの参画
- 医薬品、環境機器関連学会・展示会での積極的なプロモーション活動
- 新商品（弱酸性ソフト水）の導入

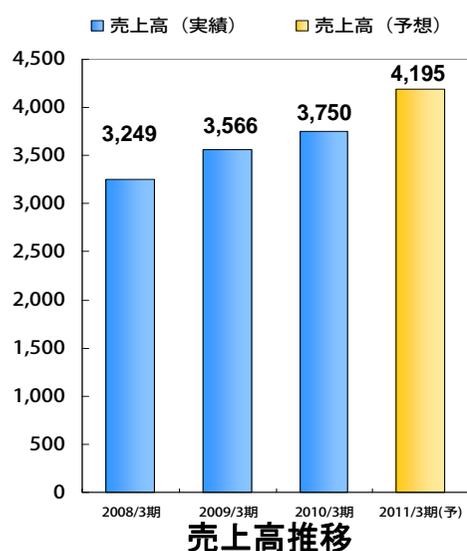
# 次期(2011年3月期)の計画

# 2011年3月期業績予想

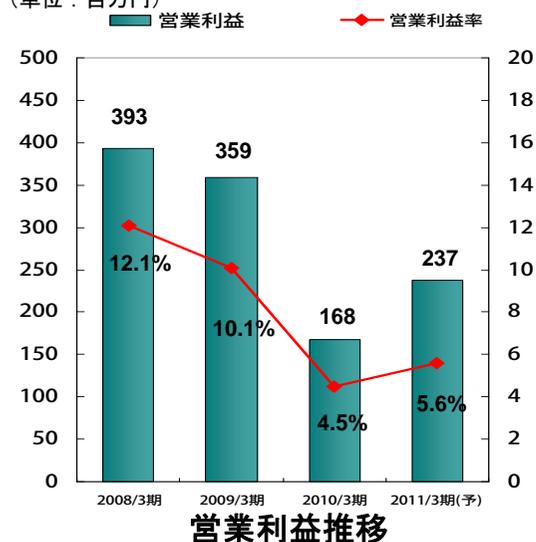
	2010/3期	2011/3期	対前期比	
	実績	予想	金額	伸長率
売上高	3,750	4,195	445	11.8%
営業利益	168	237	69	41.1%
経常利益	153	205	52	33.8%
当期純利益	66	100	34	51.5%

## 売上高と営業利益の推移（予想）

(単位：百万円)



(単位：百万円)



1. 売上高  
環境事業が牽引し、全体として10%以上の伸びを計画している。
2. 収益  
非臨床試験事業において、受注拡大による稼働率向上を見込み、利益率の改善を見込んでいる。

## ■利益配分に関する基本方針

# 配当性向20%を目標

## ■配当実績及び当期配当金について

### 配当金額の推移

#### 1株当たり配当金

2009年3月期	2010年3月期 (見込み)	2011年3月期 (予想)
1,600円	500円	700円 (配当性向21.1%)

ご清聴ありがとうございました

医薬品開発のベストパートナーとして  
Qualityにこだわり そして進化する

それがイナリサーチのビジョンです

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
社長室 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

## 本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成22年5月26日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより平成22年5月26日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。